

## 2.2 日本における医薬品在庫管理について（1/6）

### ■ 医薬品在庫管理に関連する法律について

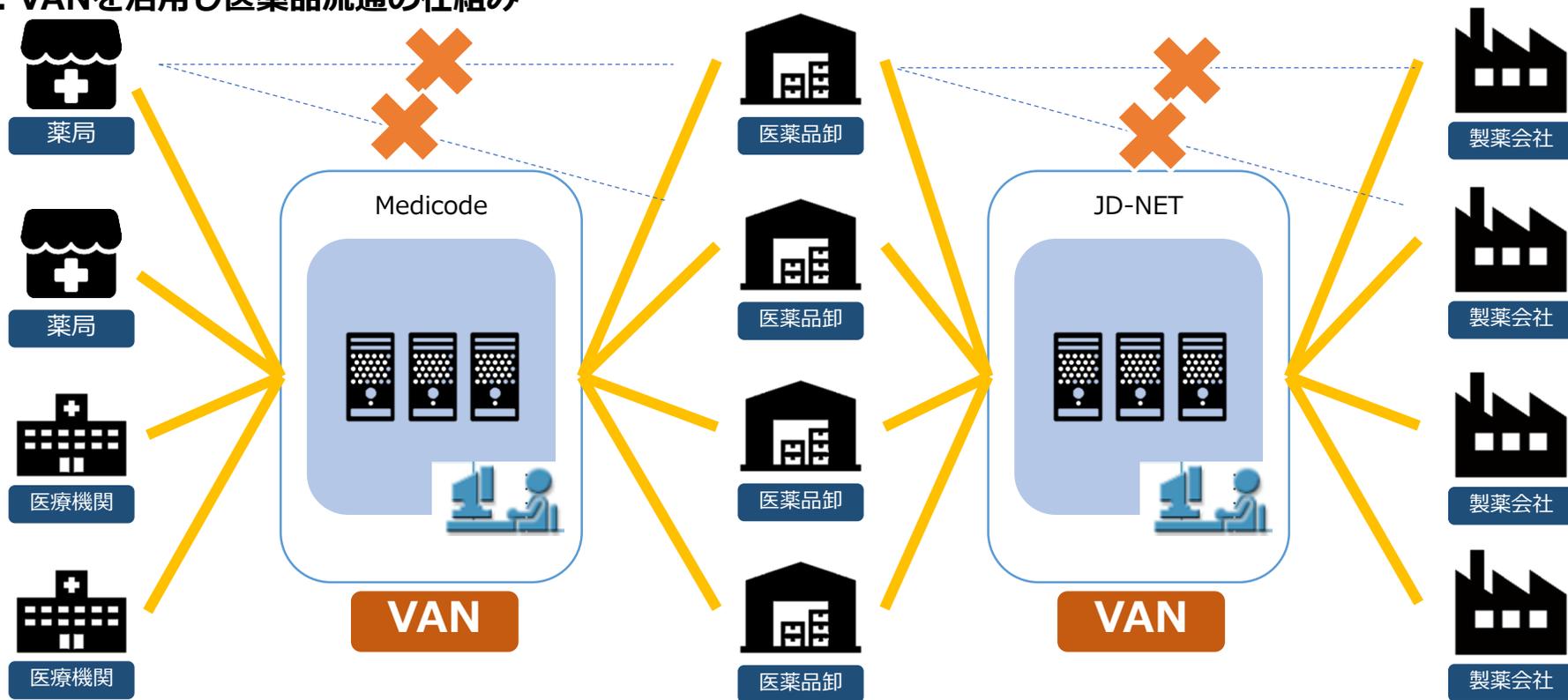
- 日本の医薬品在庫管理は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）にて義務化されている。そのため、医療機関・薬局において適切な法令順守に関するガイドラインが制定されている。
- 薬局開設者及び医薬品の販売業者の法令遵守に関するガイドラインのポイントとしては、
  - 役職員が遵守すべきルール of 策定  
適正な業務を遂行するにあたり、薬局内のルールの策定が必要。法令遵守の観点で社内規定にて明記しておく必要がある。
  - 役職員に対する教育、理解・周知の徹底  
規定されたルールの社内理解を進め、経営陣のみならず、従業員に周知徹底を図る。
  - 業務記録の作成・管理・保管  
役職員の意思決定・業務遂行の内容が適切に報告され、実施されているかを事後的に確認できる体制を整える。導入するシステムの使用についても、十分に検討する必要がある。（事後の改変等ができないなど）
  - 見える化  
管理コスト、リスクを減らすため、棚卸資産、オペレーション状況の見える化を図ることで、問題発生時に迅速に対応が可能となる。
- ➔ 上記のように、日本国内においては、薬機法により医薬品在庫管理は義務化されており、薬局等においては法令順守のためにガイドラインも制定されている。そのため、在庫管理システムを考える上で、現地での法律の観点も入れながら、システムを考える必要がある。

## 2.2 日本における医薬品在庫管理について (2/6)

### ■ 医薬品流通に関連する情報連携

- 日本では、①医療機関と医薬品卸間、②医薬品卸と製薬会社間で業界専用のEDI（Electronic Data Interchange）である業界VAN（Value Added Network）が採用されており、医薬品流通の効率化を図っている。

図9. VANを活用し医薬品流通の仕組み



- 業界VAN（標準EDIの一つ）を活用することで、取引先、商品などのコードが標準化され、同業界の多くの企業と接続が可能となる。同システムにより、1対1（A薬局とB医薬品卸）とのやり取り（注文書の作成、送付、受注側の受付手続き）といった作業が不要になる。

## 2.2 日本における医薬品在庫管理について (3/6)

### ■ ドラッグ/薬局チェーンで導入している医薬品在庫管理システムについて① (A社の事例)

- A社は、医薬品在庫管理システムCHOIS(SCSK社開発品)を使用。同システムについては、売上・売掛管理機能を実装しており、会計システムとの連動が可能である。
- 同システムにて提供しているのは以下機能である。
  - 発注
  - 入庫
  - 出庫
  - マスタ保守
  - 棚卸
  - 他店舗との在庫情報共有
  - 他システム連携
- 医薬品在庫管理については、前述のとおり法律によって義務化されており、安全性の担保、不適切な流通に繋がらないように対応する必要がある。そのため、他システムとも連携することで、ガイドラインに則った運用ができるように考える必要がある。同社では、ひと月の処方量が店舗ごとに異なるため、店舗ごとに発注点に沿って発注を行っている。店舗ごとに発注管理と在庫等の全社一元管理をシステム連携で対応することで、法令遵守の体制を構築している。

## 2.2 日本における医薬品在庫管理について（4/6）

### ■ ドラッグ/薬局チェーンで導入している医薬品在庫管理システムについて②（B社の事例）

- B社は、医薬品在庫管理システムJustockEX III(アルフレッサ)を使用。同システムについては、売上・売掛管理機能を実装しており、会計システムとの連動が可能。レセコンに連動したシステムで、発注品目の自動抽出機能によって発注漏れを防止。グループ全体の在庫・発注・購入・譲渡状況を一覧で確認でき、在庫の効率的な活用や、在庫金額の圧縮効果が期待できる。
- 同社の運用方法：  
在庫管理システムであるJustockEX IIIを活用しながら、実店舗にてかんばん方式を導入し、見える化している。

在庫管理システム



かんばん



かんばんで見える化し、システムとの比較を行うことでミス減らす

## 2.2 日本における医薬品在庫管理について (5/6)

### ■ 日本国内の在庫管理システムについて

- 日本国内で使用されている在庫管理システムを比較したものが以下の表である。ヒアリング結果から、特にチェーン店においては、他店舗との在庫情報共有については重要な機能であると判明した。また、レセプトや他の薬歴、分包機等ともNSIPS(\*)経由で連携している。

\*NSIPS: **N**ew**S**tandard **I**nterface of **P**harmacy-system **S**pecifications

レセプトコンピューターや調剤鑑査システム、錠剤・散薬自動分包機等の調剤システムを連動させるための共有仕様

表8. 日本国内で使用されている在庫管理システム比較表

	特徴	発注	入庫	出庫	検索	データ出力	患者来客 予想	帳票	マスタ保守	棚卸	契約	廻り	年次	有効期限 管理	ロット管理	麻薬管理	他店舗との 在庫情報 共有	他システム 連携
A	グループ内の店舗のデータを本部で一括して確認可能	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	○
B	最短3クリックで発注完了	○	○	○	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	○
C	発注は、「発注点方式」と「発注定数方式」から選択可能	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-
D	売上・売掛管理機能を実装 会計システムとの連動が可能	○	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○
E	オペレーターによる在庫管理に必要な資料作成	○	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○
F	天気などの外部要因も利用した高度な需要予測	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
G	光学文字認識技術を活用した手書き処方せんを読み取り	○	○	○			○			○							○	

- 価格帯としては、3,000円～50,000円までと幅広いが、ボリュームゾーンとしては、1万円/店・月前後と思われる。上記以外にも医薬品在庫管理システムと呼ばれているものが多くあることから、各システムの差別化が問われている。

## 2.2 日本における医薬品在庫管理について (6/6)

### ■ 日本式在庫管理システムについて

- 調剤薬局、ドラッグストアのヒアリングをとおして、日本式の在庫管理システムはソフト面とハード面の融合によるシステムであると整理された。
- ソフト面である在庫管理システムと、ハード面であるかんばん方式・人の動線を掛け合わせることで、システムに依存した在庫管理ではなく、見える化されていることで目視でもダブルチェックできる仕組みが日本式の在庫管理システムと言える。
- さらに、このソフト面とハード面の融合により、各薬局で勤務している薬剤師や従業員が、医薬品棚のかんばんとシステムを見比べる習慣を身に着けることで、発注のタイミング、在庫過不足に対する意識の向上（教育）に繋がり、結果として店舗内オペレーションの向上に繋がっている。

図10 日本式在庫管理システムのイメージ

